

生息環境検討部会の取組

第6回越後平野における生態系ネットワーク推進協議会

第3回生息環境検討部会 開催概要

生息環境検討部会の目的

越後平野における生物多様性を目指して、河川、潟池、水田、水路などの湿地、その周辺の里山、森林を含めた生態系ネットワーク形成を推進するため、指標種の生息環境の保全、再生及び創出に関する検討を行うことを目的とする。

第3回生息環境検討部会

日時：令和7年6月4日（水）15：00～17：00

会場：北陸地方整備局

- 議事（1）第2回生息環境検討部会および第5回協議会の報告
（2）行動計画（2035）策定に向けた検討
（3）生息環境に係る取組
（4）その他

主なご意見等

【第2回生息環境検討部会および第5回協議会の報告】

- 生態系ネットワークが不可欠であるという認識を深め、生息環境検討部会のメンバーがその必要性を第三者に説明できるよう、理解を深め、政策決定の際に活かしていただきたい。

【行動計画策定に向けた検討】

- 大規模な外来種対策を今後各地で展開するためには、河川における外来種対策の取組をピックアップしても良いと思う。
- 生態系ネットワークの形成が外来種の分布を拡大する懸念もあるため、同時並行でしっかり考えていかなければならない。
- 「優先的に取組む地区」の項では、選定地域、非選定地域での取組のあり方について丁寧な説明が必要である。また、他の優先的に取組む地区が参考にできるよう、福島潟におけるモデルプロジェクトの取組を紹介すると良い。

【生息環境に関わる取組】

- SNS市民ハクチョウ調査は、ハクチョウ類の位置情報がリアルタイムで把握できるような、情報インターフェースとして使われると良いのではないかと。
- 「優先的に取組む地区」として選定されている地域に対して、河川と農地の取組で連続性を担保するという形になると、国土交通省の生態系ネットワークの事業としても、非常に重要な取組になり得る。
- ヒシ類の一部を人間が利用する可能性や、マーケットの開発などの展開があると大変魅力的。それも含めて、生態系ネットワークの検討が進められると良いかと思う。
- 瓢湖は福島潟のグループと一緒に取組めるよう、繋げていきたい地域である。
- 将来的には、越後平野全体に環境保全型の農法が広がっていくような展開になるように、ぜひ生態系ネットワークからも推進できれば良い。

- 指標種の生息地として好適な場所が選定され、地域の人たちの後押しによって餌場として創出されたときに、自然共生サイトとして登録したいという地域があれば、生態系ネットワーク形成事業として推進できれば良いと思う。越後平野内の地方自治体の30by30の取組であり、ネイチャーポジティブに貢献できる形になると良い。



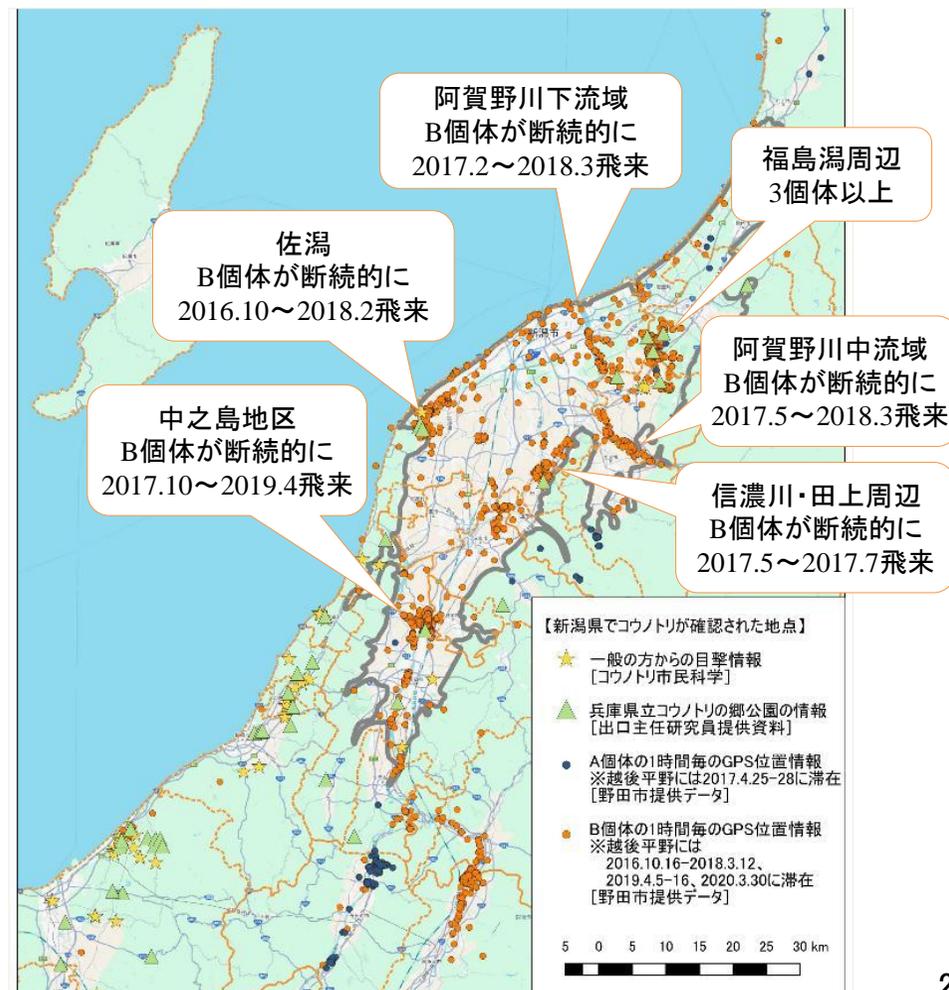
越後平野における生息状況調査・生息環境調査のまとめ

越後平野内の各主体が行っている、指標種(ガン類・ハクチョウ類、トキ)に関する生物調査をまとめた。また、参考情報としてコウノトリの飛来情報を収集・整理した。

■ 生息状況調査・生息環境調査の実施

主体	調査名	調査地
新潟大学 関島研究室		福島潟周辺
		越後平野
ねっとわーく福島潟	福島潟オオヒシクイ調査	福島潟周辺
NPO 法人新潟湿地都市研究所	SNS 市民ハクチョウ調査	新潟市内全域
コウノトリ市民科学	「日本コウノトリの会・東京大学・中央大学協働プロジェクト」として、市民参加によるコウノトリのモニタリング	日本全国
新潟県水鳥湖沼ネットワーク	ハクチョウ、ガン類の生息数同時調査	瓢湖・福島潟・鳥屋野潟・佐潟・阿賀野川(2013年追加)
環境省・新潟県・団体	ガンカモ類の生息調査	主要な潟、信濃川、阿賀野川等
環境省・団体	モニタリングサイト1000/ガンカモ類調査	福島潟・瓢湖・鳥屋野潟・佐潟
国土交通省	河川水辺の国勢調査鳥類調査	信濃川水系・阿賀野川水系
環境省・鳥獣保護区管理員	鳥獣保護区モニタリング調査	福島潟鳥獣保護区
新潟県	鳥獣生息分布調査	鳥獣保護区

■ コウノトリの飛来状況



阿賀野川自然再生事業の取組

生物の横断的連続性確保に向けた検討

阿賀野川河川事務所では、H24年度に「阿賀野川自然再生計画」を策定(R2改訂)し、中期的計画にて、横断的連続性の確保を整備メニューとして選定。連続性確保の観点を入流する支川および樋門・樋管に定め、対策を進めている。

■ 大河原樋管における課題と対策(案)

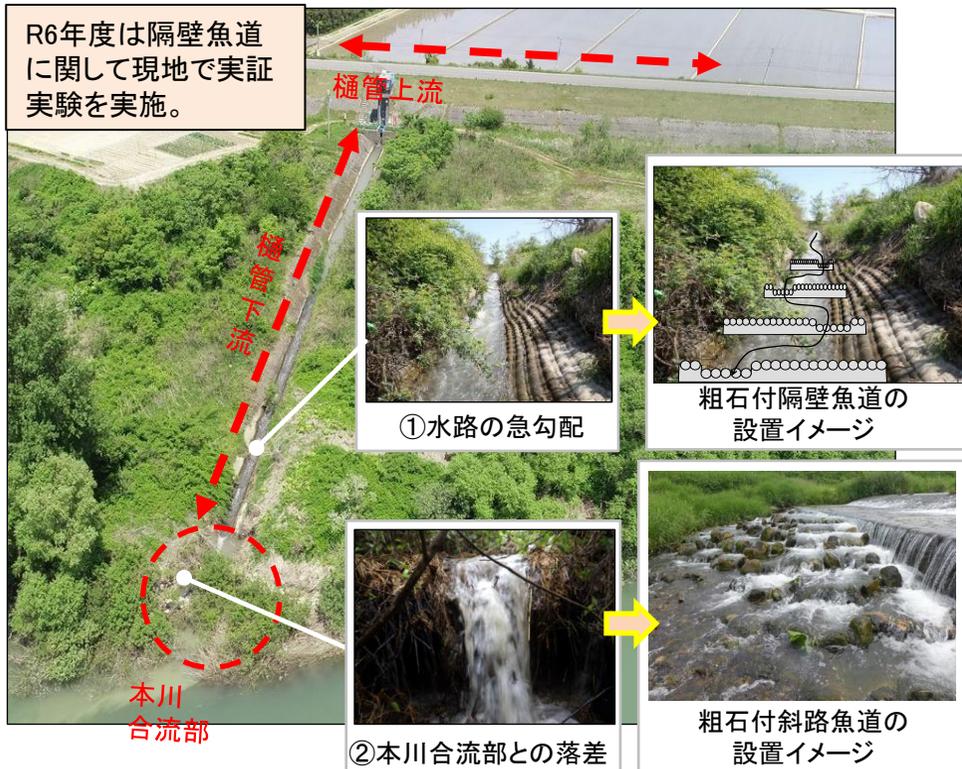
①水路下流部の急勾配→粗石付隔壁魚道を設置し、流速緩和と水深確保

②本川合流部付近の落差→粗石付斜路魚道を設置し、落差緩和

③本川合流部が狭い→合流部を拡幅し、ワンド状の環境整備

【その他】親水環境を創出し、環境学習の場としての整備

R6年度は隔壁魚道に関して現地で実証実験を実施。



■ 今後の対応方針

■ 現地における課題

・堤内の水田等との連続性を完全に確保するためには、堤外の対応(樋管下流部の落差の解消等)だけでなく堤内側の水路全体の連続性を確保する必要がある。

→別途開催されている越後平野生態系ネットワーク協議会と連携を図る。



水路と水田の間に存在する落差

■ 今後の予定

・実証実験の結果を踏まえ、大河原樋管における整備の詳細設計を実施中。
・次年度以降に施工し、モニタリングしながら他の候補地へ展開していく。

■ その他

・阿賀野川自然再生モニタリング検討会を開催。
→学識経験者からご意見を伺い、連続性確保の進め方について検討を進める。

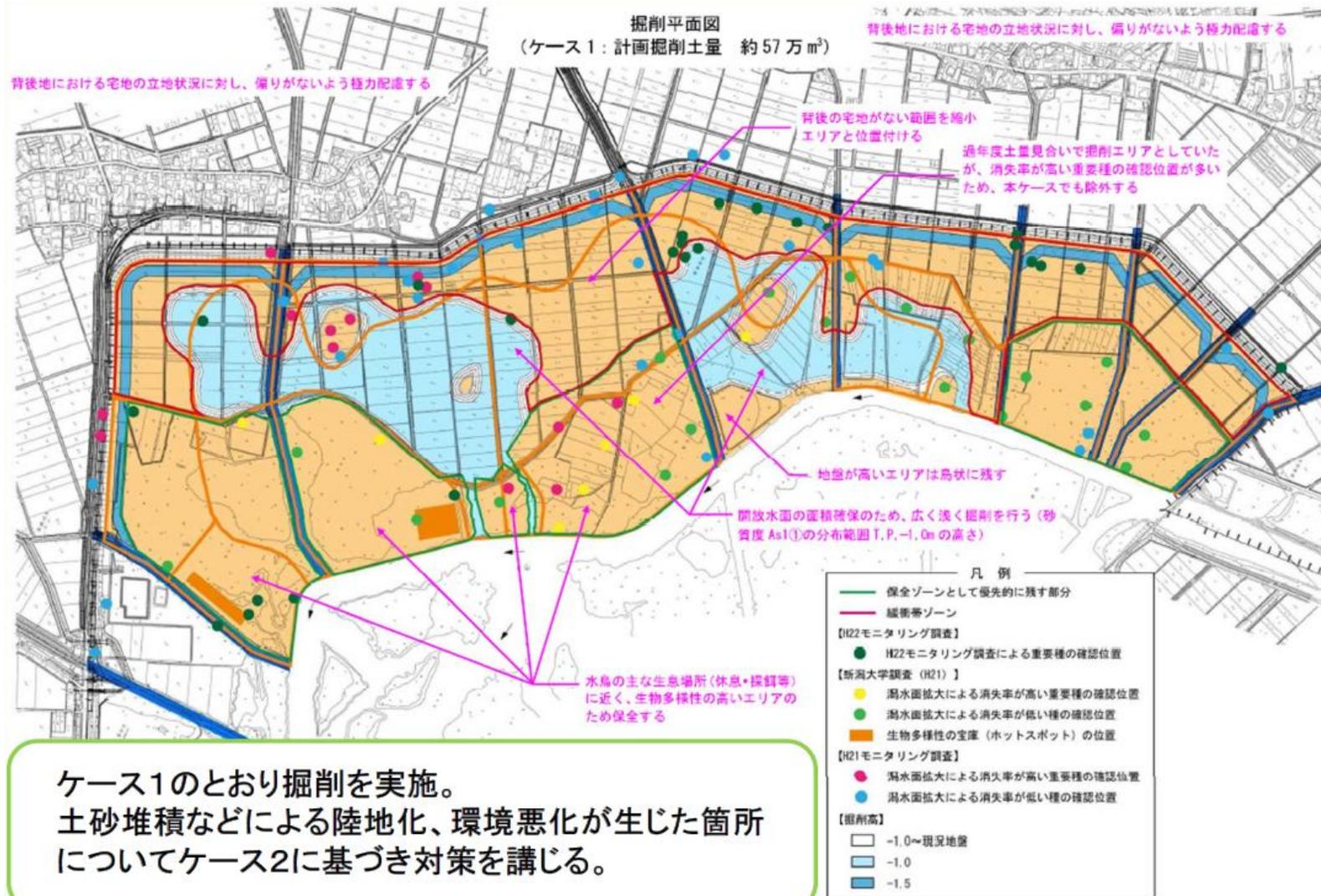


第14回自然再生モニタリング検討会

潟・池 湿地の再生 福島潟の掘削について

福島潟流域治水対策河川事業

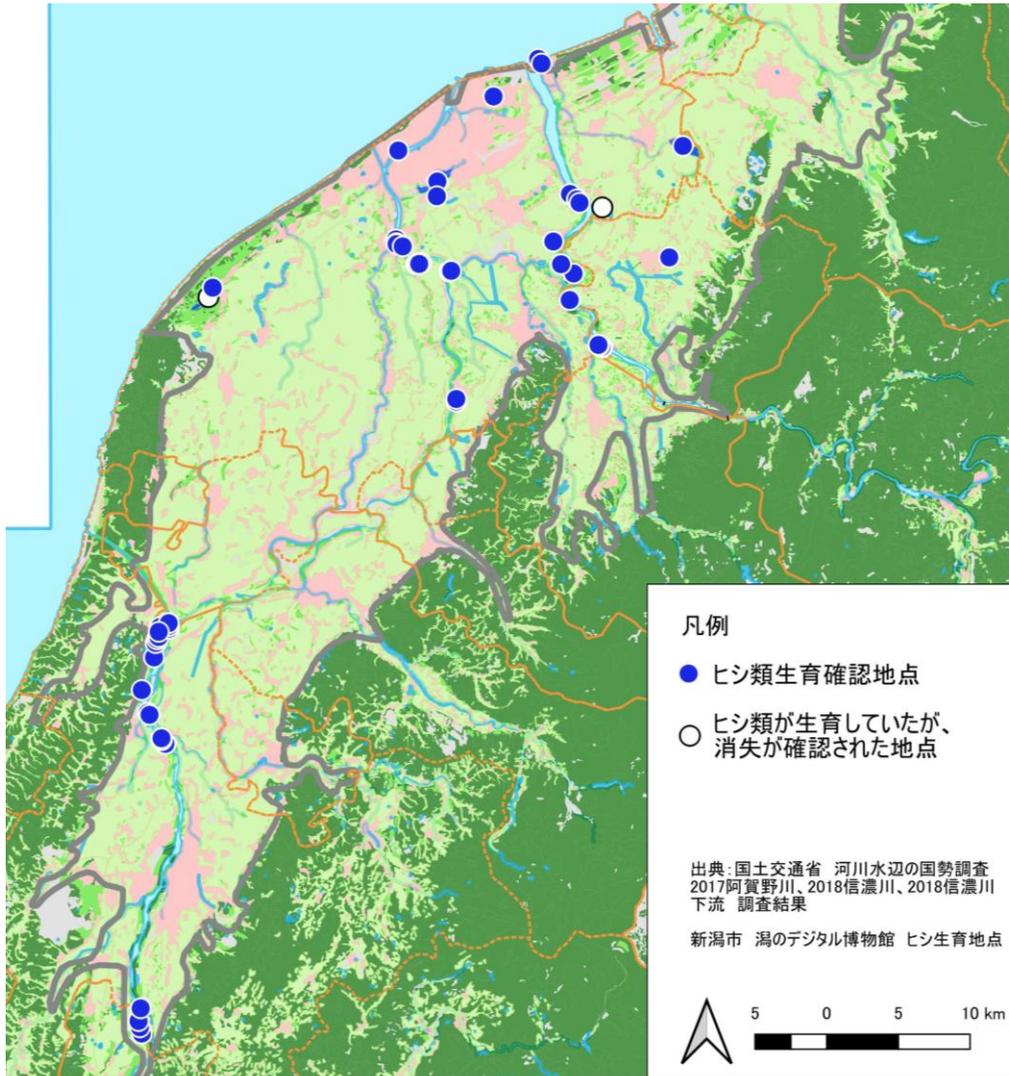
過去の水害の歴史を経て、平成15年度に福島潟河川改修事業に着手。新潟県河川整備課において治水を主な目的として掘削を実施しているが、有識者・関係団体・地元住民・関係行政団体で会議・意見交換などを実施し、自然環境に配慮した計画を策定。



潟・池 水生植物 越後平野内のヒシについて

「潟のめぐみ」として注目されるヒシの現状

潟から採取される動植物を使った料理の開発などが新潟市環境協会、新潟市北区等で行われている。その中の一つであるヒシ類について、現状で確認されている分布状況をまとめた。



・水辺の国勢調査(阿賀野川、信濃川、信濃川下流) および『新潟市潟のデジタル博物館』において、ヒシの分布が報告された地点を示す。

河川事務所管轄	ヒシ群落確認地点数
阿賀野川流域	19
信濃川流域	21
信濃川下流域	21

潟・池	ヒシ生育確認状況
福島潟	○
佐潟	○→×
鳥屋野潟	○
上堰潟	×
内沼潟	×
十二潟	○→×
浜松の池	○
じゅんさい池	○
清五郎潟	○
北山潟	×
六郷ノ池	×
北上の池	×
御手洗潟	○
ドンチ池	×
金巻の池	×
仁箇堤	×
瓢湖	○

※○→×については、確認されていたが消失が確認された地点

潟・池 水生植物 佐潟の状況について

ラムサール条約登録湿地「佐潟」の環境変化と現状の取組み

佐潟では、保全と利用の均衡を図ることを目的に、2000年に「佐潟周辺自然環境保全計画」策定、2006年に「佐潟周辺自然環境保全連絡協議会」を設置した。地元・市民団体、有識者、行政が一体となり、佐潟の環境保全と賢明な利用の推進に向けた協議を定期的実施している。

■ 佐潟の現状

(1) 水質の悪化(アオコの大量発生)

- 自然的要因
 - ・閉鎖性水系で水源が湧水に限られている。
 - ・植物の遺骸等の堆積物により水深が浅くなっている。
- 周辺農地からの施肥による栄養塩類の流入
- 潟内の有機泥(ヘドロ)の堆積

(2) 水面の陸地化(ヨシ原の拡大)

- 地域住民によるヨシ刈りの途絶(→生活におけるヨシ利用の減少)

(3) ハス・ヒシ・オニバスなどの水生植物の消滅

- 埋設種子の発芽停滞(→アオコによる湖底への日照不足、どろの攪拌停滞)
- ミシシippアカミガメ等の特定外来生物による食害



2013年頃の下潟の様子

2018年頃の下潟の様子

■ 現在行っている対策

- 適正な水位管理と水の入替え
 - ・地元保全団体による水位管理の再開(R3~)【水の滞留を減らす】
 - ・ドロばき機能を開放し、水位を大幅に低下(R5~)【埋土種子の発芽・COD改善の兆し】
- 周辺水路(ど)の復元(R5~)【湧水の確保】
- 堆積物(ヘドロ等)対策(R6~)【潟の水の出口(水門)付近の堆積物の除去】
- ハスの復活(R3~)【地域住民によるハスの移植】
- 特定外来生物(ミシシippアカミガメ等)の除去(R6~)
- ハス囲いの設置(R7~)【カメ類の食害対策として侵入防止ネット設置】



(ハス移植の様子: R7.5月撮影)

■ まとめ(当面の目標と今後の方向性)

- (できる限り) **アオコ発生の抑制**
- 佐潟再生の象徴(シンボル)としての **ハスの復活**
- 科学的知見に基づく **水質悪化の原因究明**
- 特定した原因に対する **持続可能な対策の検討**

国立環境研究所
の調査・協力
【R6.12~】

有機農業について

オーガニックビレッジ宣言

みどりの食料システム戦略を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）の創出に取り組むと宣言した自治体が、県内では佐渡市・新発田市に加え、2024年度新たに五泉市・阿賀野市も加わった。

自治体	宣言日	計画対象年度	目標	取組内容
新発田市	R6. 6. 18	R6～R10	有機JAS認証面積 R5:9.5ha→R10:14.5ha 有機JAS認証者数 R5:5人→R10:10人 有機JAS認証米販売量 R5:34t→R10:52t	<ul style="list-style-type: none"> ◆有機農業の生産段階の推進の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・有機JAS認証取得促進 ・除草用小型ロボットの開発及び普及 ・新規生産者獲得に向けた取組 ・ペレット堆肥製造機械の導入及び運用 ◆有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・海外への輸出 ・有機農産物の加工 ・学校給食への提供 ・消費PR活動
五泉市	R6	R6～	農林水産省「みどりの食料システム戦略」をふまえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地「ごせんオーガニックビレッジ」として有機農業を推進し、持続可能な農業の確立を目指している	<p>生産者、JA、新潟県、NOSAIなど関係機関で組織する五泉市有機農業推進協議会を設立し、下記の取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業産地づくり ・小中学校給食への活用 ・安定的な販路の確保 <p>市内四か所の圃場で実証。</p>
阿賀野市	R6	—	笹神地区だけでなく、市内全体で有機米の生産拡大を目指す。 令和8年までに作付面積25haへと広げる（R5年度は19の個人・団体で計19ha）	<p>有機農業の地産地消モデルの創出（学校給食）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習田 ・学校給食への有機米の試験導入 <p>「ゆうきの里ささかみ協創モデル創出事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草抑制に関する、ロボット除草機などを活用した除草作業の実証 ・地域資源を活用した有機肥料及び堆肥の製造等 ・商品開発事業 ・販路開拓事業 ・半農半X創出事業 ・冬期農産物栽培実証事業

越後平野における自然共生サイト登録状況について

自然共生サイト認定制度について

2030年目標として、ネイチャーポジティブへの転換と、陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及びOECMにより保全する30by30目標が世界目標として採択されている。そこで環境省では、OECMの設定推進のため「自然共生サイト」認定制度の運用を開始（R5～）している。

■ 新潟県内の認定サイト

●朝日城の森【価値③⑥】

【場所・面積】

新潟県長岡市3.19ha

【申請者】

(公財)こしじ水と緑の会

【現地概況】

集落から近い里山環境。コナラ等が優占する。二次林・ユキツバキ等が優占する林床。サシバ、オオタカ等レッドリスト掲載種の生息。有識者の協力のもとモニタリング。



●雪国植物園(西陵の森)【価値③④⑥】

【場所・面積】

新潟県長岡市34.82ha

【申請者】

(公社)平成令終会、
新潟県長岡市

【現地概況】

雪国の里山を利用した自然植物園、年間2万人以上の来園者。872種の植物をはじめとする多様な在来動植物レッドリスト掲載種の生育博物館等の助言を踏まえたモニタリング



●じゅんさい池【価値④⑥】

【場所・面積】

新潟県新潟市7.3ha

【申請者】

新潟県新潟市

【現地概況】

砂丘地の中に形成された二つの砂丘湖。市街地の中の貴重な緑地環境、地域の暮らしを伝える場。70種を超える野鳥の生息、レッドリスト掲載種の生息。市と地域団体が連携して保全活動を実施。



●ふれあいファーム三ヶ村【価値③④⑥⑧】

【場所・面積】

新潟県十日町市3.4ha

【申請者】

ノウ)ふれあいファーム
三ヶ村

【現地概況】

過去から継続して維持されてきた棚田。農薬や化学肥料を使わない農法による生物多様性の保全。洪水や土砂災害防止に資する防災減災サービスの提供。多様な在来種、ニホンカモシカやサシバ等重要種の生息。

